



# 伊那ロータリークラブ



事務所 伊那市西町5016-2 Tel(72)0077 例会日 毎週木曜日 例会場 くぬぎの杜 Tel(78)1121  
 会長 藤澤秀敬 幹事 平澤泰斗 会報委員長 唐木 章 第2776回例会 2017.4.6 No.1439



## Rotary Serving Humanity

人類に奉仕するロータリー

2016-17年度 RI 会長テーマ

**ソング** 君が代 奉仕の理想  
**四つのテスト** 川合 博職業・社会奉仕委員  
**会長談話**

今日はふるさと納税制度についてであります。伊那市のふるさと納税が今、申込受付を一時停止しているというニュースがありました。問題になっている返礼品の見直しを行っているとのことあります。



もともこの制度の趣旨は、人口減少で税収減に苦しむ地方自治体や、大きく被災した地域が全国各地から寄付を得て地域を復興したり、お礼の品物にその地域の特産品などを提供して地域経済の活性化に役立てようといった意味だったと思います。一方寄付した人は寄付金が住民税の税額控除になるということと、何と言ってもお礼の品が魅力的ということで人気になっていたようです。

伊那市ではふるさと納税の寄付額が一昨年 23 億円で、全国で 6 番目びっくりです。昨年は 70 億円にも及ぶ金額の寄付になる見込みのようであります。

きれいに言うと伊那市を応援したいという全国の皆さんの善意がこの金額になったということですが、問題の伊那市のふるさと納税の返礼品は、テレビ、カメラ、掃除機、ドライブレコーダーなどの電子・電化製品が多く提供されていて、伊那市の特産品、地元事業者が提供する品物ということになっているようであります。ダイソンの掃除機や、ティファールの湯沸かし器が地元特産品とは甚だ疑問です。しかも返礼品の調達額が寄付額の 45%~50%にも及ぶ金額ということで、以前のように黙って税金を納めているよりはその税金の半分を直接欲しい品物に変えようと考えた人が大勢いたことになりま。

自治体による返礼品競争が過熱してこのまま放って

置けないと、総務省からの要請により今回の見直しとなりました。

私も全国各地の返礼品目当てでふるさと納税をして、越前ガニ、飛騨牛なんか食べてみたいところですが、その分僅かながら伊那市の税収が減ることになってしまいます。どうしたものでしょうか？

**誕生祝** 橋爪利行・宮下 裕

・向山賢悟

**結婚記念日祝** 神山公秀・熊谷勝昌

・清水紀光・松崎敏彦・矢島 勇・

小松大介・本田敏和



**在籍祝**

神山公秀

(36)・平澤

泰斗(13)・

矢島 勇

(1)・波多

江崇史(1)



**幹事報告** 別紙をご覧ください。

**委員会報告** 4月号「友」の紹介

荒木康雄情報・プログラム委員長

横書き P7~P13 インターアクター

インターアクトの活動紹介

P14~P18 女性会員で広がる多様性 3割が女性のクラブもある。

P26 ガバナリーのページ 2600 地区原ガバナーが、公式訪問や地区大会について。



P36 ロータリーと歌 なぜ歌うようになったのかが書かれている。

縦書き P4 母子と健康 女性ライフクリニック 銀座院長 対馬ルリ子氏 (東京銀座新 RC 会員)... ぜひ、女性の健康を支援してください。そして女性と一緒に健康になり、幸せになっていただきたい。

P9 東日本大震災から 6 年復興に尽力したパワフルな人たち 大船渡西 RC の紹介。

**出席報告** 会員数 57 名 内出席免除 18 名 長欠 1 名 出席者 27 名 事前メーキャップ 3 名 出席率 66.67% 前々回 68.01% 変更なし。

### ニコニコボックス

伊那西高等学校校長 出野憲司様 卓話謝礼をニコニコボックスに入れて頂きました。

藤澤秀敬 ジャイアンツが開幕 5 連勝です。とりあえず、おめでたい。

大石ひとみ 本日卓話させて頂きます。ドキドキが止まりません。ありがとうございます。

宮澤弘明 二女就職、三女高校卒業し、大学入学しました。

中部電力が今月から家庭向け都市ガス販売を愛知県内で始めました。

清水紀光 三番目の孫が今日小学校へ入学しました。

在籍祝 神山公秀・平澤泰斗・矢島 勇・波多江 崇史

ラッキー賞 小坂栄一・小坂樫男・小林旬子・清水紀光・竹腰哲夫・宮澤弘明・矢島 勇



**臨時総会** クラブ定款及び細則の決定、内規の変更について

藤澤会長より説明され、それぞれ可決承認された。

**会員卓話** 大石ひとみ会員

演題 - 「地域で...」 -



昭和 38 年 8 月 1 日、伊那市生まれの 53 歳です。小沢川ほとりの旧伊那市役所近くで育ちました。幼いころは近所の世話焼きおばさんたち

(飲み屋さんや製麺所さん等) に本当によく面

倒をみてもらって頭ひとつ分育ててもらいました。その後、美篤に引っ越し、小学校ではカルチャーショックを受けたりしました。

両親の方針で、小さいころから自分で何でもできるよう育てられ、高校生では学費以外は自分のアルバイトで稼いだお金で生活していました。

一人っ子として、両親からは「将来、私たちの面倒を看てもらおうよ」と言われていて、言われた通りに素直に育って、期待通り 20 歳で婿養子を迎え、二人の子どもにも恵まれました。その後、主人とはうまくいかなかったのですが...

私は、福祉の世界で働いていますが、それは昔の地域の障がい者の捉え方に影響を受けたからだと思います。今は、差別用語として使ってはいけない言葉ですが、知的障がい者、身体障がい者、精神障がい者の人たちを昔は「のうたりん」「かたわ」「きちがい」といった言葉で表現しながらも、ちゃんと地域が受け入れていました。つまり、障がい者の人たちと普通の人たちが地域の中でうまく共生していたと思います。世話を焼く人が地域にたくさんいて、ちゃんとうまくやっていました。

主人と離婚した後、子どもふたりを養うためにも働かなくてはいけないということで、家の近くに特別養護老人ホームがあったので、そこで働くことになりました。ちなみに、よくわからないうちに、公務員試験を受けることになり、合格し、伊那市役所職員として採用されました。14 年間務めました。その間に「自分でやりたい」という思いが強くなり、独立することにしました。

実は、父は 60 歳で脳梗塞を患い、64 歳で再発し、その後、痴呆の症状も出てきたりしたのですが、母一人では介護が大変だったところ、やはり地域の方々に支えてもらいました。

昨年、県の福祉の関係の委員会に呼び出されて、会議に「ちん」と座っていましたが、私の行動範囲は自分の地域、つまり半径 2km だと改めて思いました。私の仕事は、この地域で、昔はあったけど今は途切れてしまった地域の糸を結び直すことだと思っています。

そして、私は、地域で物言えるおばさん、「良いことはいい」「悪いことは悪い」といえるおばさんを目指して、これからも地域で頑張っていきたいと思っています。